

身に巻きつけ、自暴自棄になったようにさまよい歩く姿も見られました。

八月十三日までの間、毎日の昼間の作業は集めてある死体を一体ずつ調べ、名札のある人については住所、氏名、年齢を帳簿に記入し、氏名の分からない人は所持品や推定年齢を記入して、一人ずつ火葬に付して遺骨箱に入れました。また、付近の破壊した建物の整理をしながら死体の搜索もしました。

夜間の作業は、光と煙を出すと敵の空襲の目標になるため、午後五時をすぎると、けが人や遺体を収容していました。

本当にこれだけ大きな被害を出したのは、アメリカが造った新型原子爆弾が初めてで、広島市に試験的に投下したものでした。

私も、原爆が投下された時に現地にいて被爆しています。

多くの犠牲になられた方のことを思うと、今でも胸が痛みます。心からご冥福をお祈りするとともに、あのように悲惨な生き地獄のようなことが二度と起こらないよう、われわれ被爆者は世界中の人々に、また自分の子孫にも生きた教訓として言い伝えていきたいと思い、つたない文ではありますが、一筆書かせてもらいました。

